

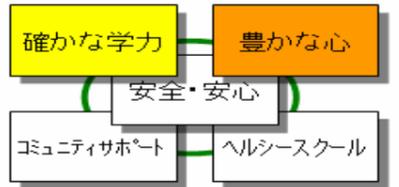
# 教育いちかわ

## 市川の学校教育3カ年計画

1. 確かな学力をはぐくみます
2. 豊かな心をはぐくみます
3. 健やかな体をはぐくみます
4. 信頼される開かれた学校をつくります

■発行 市川市教育委員会  
〒272-8501 市川市八幡1-1-1  
TEL 334-1111

■企画編集 市川市教育センター  
〒272-0015 市川市鬼高1-1-4  
TEL 320-3335  
FAX 320-3352



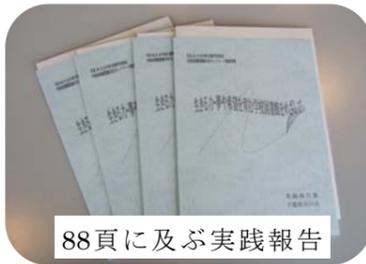
《実践発表会 次第》  
研究概要説明  
研究ブロック実践発表  
①第三中ブロック  
②大洲中ブロック  
支援センター委員長講話

## 「本」から広がり、「本」が創る学びの世界

確かな学力・豊かな心をはぐくむ教育の現場において、「本」の果たす役割に注目が集まっています。市川市では、市内全体が1つの大きな図書館として機能し、子どもたちの学びを支えています。「本」から広がり、「本」が創る学びの世界について、いくつかを紹介します。

### 生きる力・夢や希望をはぐくむ学校図書館をめざして

#### ～ 学校図書館資源共有ネットワーク推進事業 実践発表会 ～



市川市の「めざす学校図書館像」の実現にむけては、以下の3つの機能が必要です。  
①いつでもだれでも自由に使える図書館  
②多様な資料・外部機関と結ばれた図書館  
③地域とともに歩む図書館  
これらの機能を充実させる方策を見つけていくために、文部科学省の指定を受けて、3カ年にわたって研究を進めてきました。

11月28日(火)、市川市生涯学習センターにおいて、「5つの研究協力ブロック・グループ」を代表した実践発表がありました。

「本」の共有を念頭において活動を組み立てていく中で、幼・小・中の連携が深まり、子どもたちの学びを支援する裾野を広げることができた等の報告がされました。これら市川市が進める「本が創る学び」に対して、市内外からの注目が集まっています。本年度も16回の視察団(12月末現在のべ143人)を迎えました。以下、2つの実践を紹介します。

### 読書の「日常化」から「個性化」へ

#### ～ 公開研究会 ～ 富貴島小学校

参加者200人。長年にわたり、読書教育に力を入れている富貴島小学校の公開研究会が11月28日に行われました。本年度は、「読書好きの子どもたちの育成「日常化」」から、さらに一歩進めて、「自分なりの読みを深められる「個性化」」にむけた取り組みを目指しています。



#### 「読書教育」の広がり

展開されたのは、どれも「読書教育」に係わる活動で、どのクラスも子どもたちがいきいきと活動していました。「読むこと」を深めていく取り組みでは、さまざまな仕掛けがなされていました。学習材との出会いを大切に、友達の発表と自分を比べながら自分自身の課題を発見させる、グループで考えをまとめて整理していく、自分の課題にあった本や資料を資源共有ネットワークを活用しながら深めていくなど。また、「交流活動」や「表現活動」の工夫などの「場の設定」も、多種多様な姿が見られ、「読書活動」というキーワードの裾野の広がり方に感心しました。

#### これからの教育の先取り

富貴島小学校が取り組んでいる特徴的な活動に、「おはなし会活動・読書会活動」や「読書まつり」があげられます。「読書まつり」は、1～2年生は上級生の発表内容を自分の興味・関心にしたがって鑑賞します。3～6年生は、学級又は学年で発表を考えます。オペレッタ、影絵やシルエット劇などバラエティーに富んだ表現方法を取り入れて、活動を進めていました。参加者から「子どもがしっかりとっている。これが読書の成果なのだと感じた。」という言葉がありました。全体会で講師をされた大熊徹教授(東京学芸大学)からは、「富貴島小学校の子どもたちは優しく、表現が豊かであり、読書活動をもとにした学びがこれからの教育の先取りをしている」というまとめの言葉がありました。

児童・生徒のよりよい学びを支えるうえで、「読書活動」のもつ力が見直されています。今後も「読書教育」の輪が広がっていくことを期待しています。  
[指導課・教育センター]



### 幼小連携が創る安心感と相互理解

#### ～ 図書館交流公開研究会 ～ 塩焼幼稚園・塩焼小学校

絵本を広げる。カラフルな色づかい。読みやすくインパクトのある言葉が目飛び込みます。誰もが吸い込まれるような世界がそこに広がっています。「業間休みに小学生が幼稚園児に絵本の読み聞かせをしている学校があるのですよ。しかも、ボランティアで...」その言葉に誘われるようにして、12月6日(水)、小学生と幼稚園児との交流の様子を参観しました。

#### 一緒に「聞き」、一緒に「遊ぶ」

授業は図書室で行われ、園児たちはパートナーの5年生の脇に座り、一緒に「ももたろう」を聞きました。語り手は、元学校図書館員の酒井さん。ジェスチャーをまじえて楽しく語って下さいました。面白い表現や言葉(音)に大きな声で笑う園児たちの様子を見て、5年生のお兄さん・お姉さんたちも「幼稚園児の気持ち」に近づいていきました。「絵本を読まずに覚えて語ることで、聞き手の表情を感じることができるので、たまにこうしています。今日は、みんなよ～く聞いてくれましたね。」と酒井さん。次に、「ももたろうさん」の歌遊びをしました。最初はペアで行いゆっくりと。徐々に人数を増やしてスピードアップ。最後は大きな輪になり元気な声が図書室に響きました。

#### 読み聞かせボランティア「にじいろの会」

業間休みは、小学生が1対1で「読み聞かせ」のボランティアをしました。その数はどんどんと増え、3つの会場をいっぱい埋め尽くしてしまいました。思い思いの絵本を、その子一人だけのために一生懸命に読む光景は、まるで、お母さんが枕元で読んでくれているような温かさがありました。

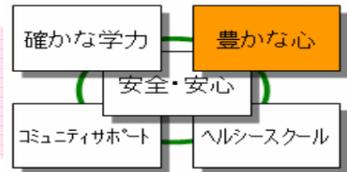
幼小連携は、キッズボランティア(調理・遊び)・焼き芋会・運動会・マラソン週間への参加など活動はどんどんと広がっています。幼稚園児にとっては、小学校が身近なものになり、小学生にとっては、相手を思いやって気を配れるような成長につながっています。幼・小が連携をはかることで、安心感と相互理解が生まれ、みんな(児童・園児・職員・保護者)にとって良質の「学び」が創り上げられています。



小学生による読み聞かせ

# みんなで考えよう。命の尊さ・・・

「いじめ」や「自殺」の問題がクローズアップされている中、各学校において「命を大切にする」具体的な取り組みが始まっています。ここでは3つの中学校の例を紹介します。



## 第八中 いじめのない学校へ



11月はじめに実態を把握するためのアンケートを実施し、具体的な取り組みが始まりました。

まず、読書月間にあわせて3日間をかけて全15学級で「読み聞かせ」を行いました。担当して下さったのは、学区小学校(鶴指小・平田小・大和田小)の「読み聞かせの会」の方々。選んだ本は、「いじめ」を取り上げた代表的な絵本「わたしのいもうと(松谷みよこ作・味戸ケイコ絵)」です。

読みはじめるとすぐ静まりかえり、ピーンと張りつめた空気が漂う中、たんと静かに読み進められ、時間がゆったりと流れました。そして、生徒たちは、絵本の中の「わたし」と「いもうと」の世界に入ってきました。

ボランティアの方々も、頬を紅潮させながら、「中学で行うのは初めてで、すごく緊張しました・・・」と感想を述べていました。



12月上旬、「教育講演会」が行われました。講師は、終末医療(ホスピス)に携る医学博士の小澤竹俊さん。スライド・映像・音楽等を活用し、90分間の講演でした。終末医療の現場で、「命」と向き合う人たちから学んだことは、「苦しくても穏やかでいることができる。苦しみは、負の要素だけでない。」ということ。①将来の夢、②支えとなる関係、③自己決定できる自由の3つの柱があれば、生きる勇気は湧いてくるとのお話に、生徒たちは深くうなずいていました。

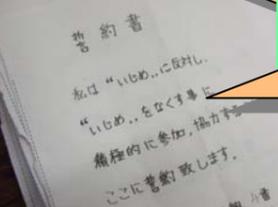
生徒たちが身を乗り出すようにして見入ったのが、難病と闘う女の子が、クラスメートに自分の思いを語る映像でした。実話をもとにして作られたこのドラマは、命の終わりをみつめる少女の心の変容を映し出していました。「病気になったからって、失うものだけじゃない。障害があっても、胸をはって生きていこう。」同世代の主人公が発する言葉は、生徒たちの心の奥に響きました。

この後、生徒会が中心になって、全生徒が作成する「いじめをなくす標語づくり」の活動が始まりました。第八中の挑戦は続きます。

## 南行徳中 いじめをなくそう!

# オレンジリボンキャンペーン

## 妙典中



12月11日、全校朝会で生徒会役員が次のような投げかけをしました。(南行徳中)

私たちが気づかないだけで、いじめに傷ついている人がいるかもしれません。そんな人を救うためにいじめをなくしたい!そこで私たち生徒会は「いじめをなくそう、オレンジリボンキャンペーン」を実施することに決めました。

初日は、受付から長蛇の列ができるほどで、次々といじめ反対の誓約書が提出されました。放課後、1週間に渡って受付を行い、今では、ほとんどの生徒がオレンジリボンをつけています。

2年前に行った同様の活動にヒントを得たこの運動は、実生活の場で確実に成果を現しています。「みんな、大変だね。」「なんかすごいこと始めたね。」生徒会役員に伝わる何気ない一言は、少しずつ変わっていく雰囲気を映し出しています。

「制服に映える色だからオレンジに。」胸のリボンの存在は、「いじめをなくしたい」という静かな声となって、南行徳中学校の生徒たちの心に響き続けています。



リボンの力でいじめをストップ

11月のはじめ、全校生徒の前で生徒会長から活動の趣旨が説明されました。いじめを「しない」「させない」「見逃さない」取り組みです。(妙典中)

もし、いじめを目にした時、それを止めるのは簡単なことではなく、とても勇気のいることです。しかし、だからといって注意するのをやめるのではなく、いじめを受けている人がどんな気持ちなのかを考え、止めに入りたいです。その仲間であるという意志を形としてあらわしてもらうためにオレンジリボンをつけてもらうのです。このリボン活動を通していろんな人を助けるための勇気が湧いてくるはず。生徒会は本気でこの活動に取り組んでいきます。

11月初旬に始まったこの活動では、校内5カ所にリボンを設置。自発的に胸につける(意思表示)ことに特徴があります。

12月末までに6~7割の生徒がリボンをつけたことで、みんなの中に「安心感」のようなものが漂い始めているといいます。

「リボンがあれば、『それ、いじめだよ。』ってサラリと言う勇気が湧きます。」運動を支える生徒会役員は、手ごたえを感じつつも更にこう付け加えました。「この学校にとどまらず、多くの人や、多くの学校で広がるように願っています。オレンジリボンの力に期待しています。」

[指導課・教育センター]



朝の登校風景。制服の左胸にリボンが輝く

## 平成18年度 市川市教育功労者表彰



11月22日(水)、平成18年度市川市教育功労者表彰式が行われました。今回表彰された12名の受賞者は、校長・教頭・教諭・養護教諭・事務長・学校医・学校歯科医・学校薬剤師・地域の方等、多岐にわたっており、多種多様な教育活動を永年にわたり展開されてきた方々です。

このような方々が表彰されることが、裾野の広い「市川教育」の姿であると感じました。表彰された皆様のお名前と所属をご紹介します。

皆様、受賞おめでとうございます。(敬称略)

[教育総務課]

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 瀧野 英一 (稲越小学校 校長)      | 角田 和恵 (大和田小学校 校長)    |
| 加藤 善久 (鬼高小学校 事務長)     | 藤間 信夫 (大柏小学校 校長)     |
| 小林 路子 (第八中学校 教諭)      | 藤井 観三 (行徳っ子守り隊 隊長)   |
| 竹内 允 (真間小学校 学校医)      | 浮谷 久子 (富貴島小学校 学校歯科医) |
| 岡崎 美沙子 (国府台小学校 学校薬剤師) | 島田 政敏 (大町小学校 教頭)     |
| 青本 正二 (塩焼小学校 教諭)      | 西村 紀美代 (宮田小学校 養護教諭)  |

# コミュニティクラブ 晩秋の恒例行事

## ほっとホットハートフェスティバル

### 南行徳中ブロック コミュニティクラブ

すっかり秋らしくなってきた10月28日(土)、南行徳市民センターで南行徳中ブロックコミュニティクラブ「ほっとホットハートフェスティバル」が開催されました。

この活動は地域の様々なボランティア団体の発表の場をつくり、小学生や幼稚園児・保育園児、保護者を中心に一緒に楽しく参加する行事で、本年度9回目となりました。読み聞かせや人形劇、発表会等を中心に行われましたが、見ている子どもたちに声をかけながら、体を動かして参加している光景はとて微笑ましいものでした。

休憩前に行われた「お話し博士は誰だ！」では、絵本に関する質問が出題され、一問一問に歓喜の声があがりました。最後まで正解し続けた小学2年生の男の子とその妹さんが手作りの金メダルをもらい、とてもうれしそうにしていました。



## 焼き芋会

### 若宮小コミュニティクラブ (第四中ブロックコミュニティクラブ内)

「熱い」「煙い」「おいしい」様々な声が飛び交う若宮小学校で、12月2日(土)、若宮小コミュニティクラブの「焼き芋会」が開催されました。

今年は例年になく落ち葉が少なく、前日までに集めたものだけでは足りませんでした。そこで、当日も校内に落ちている落ち葉はもちろん、あじさいの枝等を集めては焚き火の中へ入れていきました。

火が落ち着いた後に、ホイルで包んだサツマイモを入れ、灰や炭をかぶせて上からも火をつけ、30分くらい経ったら芋を取り出し、子どもたちから順番に熱い芋を配りました。子どもたちは軍手越しに伝わる熱に「あつい、あつい！」と叫び、数分後、熱い芋を口にすると今度は、「おいしい！おいしい！」と歓喜の声をあげていました。

小学3年生の男の子は、煙で咳き込みながらも「お芋が焼けていくのは楽しい」と笑顔で火を扇いでいました。季節感があってとてもいい「秋の恒例行事」でした。 [地域教育課]



## ゴミサポ 情報ネット

あなたの街の地域活動情報  
【アクセス方法】  
→ 市川市のHPを開く  
→ 教育委員会のHPを開く  
→ 上記のロゴをクリック!

## 子どもたちの健やかな成長を願って

～ 第2回 コミュニティサポート連絡会 11月21日(火)開催 ～

コミュニティサポート連絡会は、小・中全55学校区に設置されている「コミュニティサポート委員会」を支える柱の一つ。子どもを中心において、学校・家庭・地域が手を携えて、子どもたちの活動を支えていく「コミュニティサポート」を充実させるのがねらいです。

連絡会では、PTA連絡協議会・子ども会育成会連絡協議会・コミュニティクラブ推進会議・青少年相談員連絡協議会・体育指導委員連絡協議会・自治会連合協議会・民生委員児童委員協議会の各団体の代表者と、相談役、学校(校長会)の代表者が、子どもたちの健やかな成長を願って、情報交換や意見交換、協議等を行いました。

各団体からは、子どもたちの安全・安心の確保に向けてパトロールを行っている事例や、豊かな心を育むための体験活動や行事の開催に取り組んでいる事例が報告されました。また、ボランティアの不足や、活動に参加する子どもの減少といった課題のほか、他団体や行政への要望も出されました。

市川市では、コミュニティサポート連絡会で出された意見を大切に、課題の解決に向けた取り組みを進めることによって、各団体の活動を支え、コミュニティサポート委員会の充実を図っていきます。

## 信 篤 小

## 夜間照明がついた!!



信篤小学校の校庭夜間照明の設置が完了し、11月25日(土)午後4時30分より、地元自治会連合会主催の点灯式が、地域の方々や利用している子どもたち100名を優に超える出席者のもとに行われました。

挨拶の後、市長及び地域の方によって点灯ボタンが押され、校庭が鮮やかに浮き上がりました。この時を待ち望んでいた出席者から、大きな拍手と歓声があがりました。「すごく明るいね」と喜びあっていました。

その後、地元の少年野球チームと少年サッカーチームの代表の子どもたちのお礼の言葉がありました。

喜びの中で終わった夜間照明点灯式。式の後には、子どもたちが校庭を嬉しそうに走りまわっていたのが印象的でした。

[地域教育課]

## ヘルシースクールの実践発表!!

### 第33回 児童・生徒保健研究発表会

11月29日(木)、第33回 児童・生徒保健研究発表会がグリーンスタジオ(メディアパーク市川)で行われました。今年度は4校のステージ発表と5校の展示発表、2校の見学があり、児童生徒69名、学校関係者62名が集まりました。

ステージ発表や展示発表では、子どもたちが自分たちの身近な健康課題に対して調査・研究し、実践したことをまとめています。ここでは、ステージ発表校4校の発表内容について紹介します。



#### 北方小学校「残さず食べよう！」

校内で食事に関するアンケートを行ったところ「好き嫌い」の問題がみえてきた。そこで、健康委員会では、好き嫌いを克服して何でも食べてもらうように、集会で「劇」や「食べ物選手権」を行い、全校児童に呼びかけている。

#### 大柏小学校「食について考えよう！」

保健・給食委員会では、夏休み中に「食」に関する各自が課題を決めて個人新聞を作った。2学期にその個人新聞を持ち寄り、グループごとに「食」について話し合ったところ、「食の大切さ」や「バランスのよい食事の重要性」に気づいた。このことを全校児童や、家庭、地域にも知らせたいと考え実践を続けている。(この活動は、「食の学習コンクール」、「食の冒険王グランプリ」で賞を受ける。)

#### 大野小学校「レッツ ゴー! 大野小! わくわくヘルシー体操」

運動委員会では、全校児童がすすんで楽しく運動に取り組むきっかけづくりになればと、3年前からいろいろなオリジナル体操を作っている。このヘルシー体操が全校に広がっていくよう、昼休みなどを利用し取り組んでいる。

#### 第五中学校「薬物乱用防止について知ろう」

保健委員会では、夏休み中「薬物乱用防止」に関して調べ学習をした。2学期にそれぞれが調べたことを内容別にまとめ、文化祭で展示発表した。この発表で全校生徒の「薬物乱用防止」への関心が高まった。

子どもたちの主体的な活動が学校全体や地域に広がり、健康に対する意識が高まっています。そして、このような日々の実践活動がヘルシースクールの実現につながっていくと思います。 [保健体育課]

# ふれあい・交流・体験をキーワードとした取り組み



## 新浜小



全校合唱「まっかな秋」と島筒さんのピアノ演奏。全体が一つになった瞬間でした。児童から贈られた緑のマントが輝いています。

10月19日(木)、新浜小学校の福祉教育研究発表「島筒英夫さんとのふれあいコンサート」を訪問しました。島筒さんは、「さよならぼくたちのほいくえん」などの作曲も手がけている盲目のピアニスト。コンサートでは、ピアノの調べやお話に耳を傾け、一緒に歌を創り上げました。「ふれあいコンサート」の名にふさわしく、島筒さんと全校児童・保護者・先生方がひとつになった温かい雰囲気が醸し出されていました。

今回の特徴は、コンサートの前後にも交流を組んだこと。全国で数多くコンサートを行う島筒さんにとっても、初めての経験だそうです。それぞれの学年が、目の不自由な島筒さんを思いやる交流を考えました。お礼の手紙をテープに吹き込んだり、一緒に合奏する曲を予め録音して届けたり、子どもたち自身が案内役をしたり…。これらを受けて、島筒さんも、子どもたちの気持ちに応えるように「飾らないそのままの姿」で「心からのメッセージ」を伝えてくれました。

2歳で失明した島筒さんは、6歳の時に「見えないからこそ」という母の薦めがあってピアノを習い始めました。途中、何度も挫折しそうになったものの、中3の時に「月光」という曲に出会い、「ピアノで生きること」を決意しました。島筒さん曰く、「見えないというハンディのおかげでピアノという宝に出会えた。」「辛かった経験は、全部が生きるうえでの大切なことにつながる。」これらの言葉は、子どもたちの心を成長させる力になっていくことでしょう。新浜小では、今後も「福祉教育」の取り組みを継続させていく予定です。



## 百合台幼 第三中

百合台幼稚園と第三中学校では日常的な交流が続いています。7月には三中生が百合台幼稚園を訪問して、10月中旬には、園児たち約60人が第三中を訪問しました。あいにくの雨天で予定していた活動時間が短くなってしまいましたが、交流の時間は「なごやかな空気」に満ちていました。折り紙を折って遊んだり、だるまさんがころんだをしたり、縄跳びをしたり、笑顔いっぱいの時間でした。最後には、中学生のおにいさん・おねえさんによる「大きな絵本」を使っての読み聞かせがありました。

「中学生との交流で温かく迎えてもらった記憶は、園児たちが未就園の子どものお世話をする時にとっても役立っています。おみやげの手作りマスコットをとっても大事にするのですよ。」と園長先生。迎え入れる側の担当の先生は、「この活動は、中学生にとって素晴らしい経験です。」と目を輝かせて語ってくれました。



生徒の感想では、「始めは小さい子と接するのが苦手だったので、すごく不安でやりたくなかったけど、いざ話したり遊んだりしてみたら、私の方も楽しく思えたり、小さい子ってこんなこと考えているんだあといういろいろな発見があった。小さい子と接したことで今まで知らなかった何かを気づかされた気がする。この交流をやってよかった。楽しかった。」別れぎわの中学生のしっとりとした雰囲気が、この活動の意義を物語っていました。



園児たちもすっかり慣れて笑顔いっぱいでした。

## 大洲幼 市川工高



10月27日、大洲幼稚園を訪問しました。「小・中学生」だけでなく、「高校生」や「地域の方々」との交流を進めているのは、「地域の子どもとして育てたい」という願いがきっかけです。

1回目は自己紹介をしますが、2回目から自然な形での交流をもち、3回目ともなると、まるで遊んでいるところに高校生が仲間に入れてもらう感じ…で交流が始まりました。「選択 家庭基礎」授業として来園している高校生には、とっておきの時間。担当の先生もこの活動のよさを感じて、「高校生にも、とても良い経験。普段の学校では見られない表情を見ることが出来ます!」とおっしゃっていました。実際に遊んでいる(?)高校生に話を聞いてみると…「大人数を面倒みるのは大変だけど、元気をもらえる。」「子どもたちの姿を見ているだけで、なんか楽しい。この授業は大好き。」「最初は不安だったけど、子どもたちに素直に受け入れてもらったので平気。」など、年間4回の交流をもっと増やして欲しいという声が多く聞かれました。

交流の後半には、必ず「読み聞かせ」をします。園庭を駆け回っていた園児たちが、真剣な眼差しで絵本を見つめていました。この読み聞かせは、大評判。いつまでも読んでもらった絵本の話をしている子もいるそうです。

待ち遠しくなるほど、この交流が楽しい。そこにいるほとんどの人がそう感じているような時間でした。 [指導課・教育センター]

## 特別支援教育



## 笑いあり、涙あり。拍手また拍手の合同学習発表会

11月18日(土) 9:30~16:00 合同学習発表会が行われました。「合同クリスマス会」として出発したこの会は、「合同こども会」・「合同学習発表会」と名称を変えてすでに41回を数え、地域の皆様に障害のある子どもたちの日頃の学習の成果を発表する会として親しまれています。

今年も、300名以上の児童・生徒が表現活動を豊かにすることをねらいに、練習や準備に精一杯取り組みました。当日、ステージに立つ際の「緊張感」は、発表が終わるころには、「達成感」に変わったことでしょう。劇や歌に一生懸命に取り組む姿は、見ている私たちに多くの感動を与えてくれました。会場は超満員。観衆というよりは、発表と一緒に創り上げる「サポーター」という感覚です。笑いあり、拍手あり、涙あり…本当に充実した時間でした。今後とも、この発表会を通じて、障害のある子どもたち及びその教育への理解がなお一層深まっていくことを期待しています。 [指導課]

新行徳橋で羽を休める水鳥の名は? 答は2面参照



## 市川自然博物館からのお知らせ

散策会(市内の自然が豊かな場所を気軽に散策します)

2月18日(日) 午前  
江戸川放水路  
テーマ: 冬の放水路

参加申し込みは不要。集合場所はお問い合わせ下さい。また、雨や大風など天候不良の場合は中止です。 電話339-0477